



いよいよ水揚げが上向ってきた深浦町のマグロ漁 = 1日午後1時50分ごろ、岩崎漁港

マグロ漁さあ本番

深浦漁獲規制に不安も

深浦町の岩崎漁港が1日、マグロの水揚げで沸いた。5月29日に深浦漁港で130キ台の大口が揚がるなど今季の漁は上向いてきた。今年から太平洋クロマ

グロの資源管理へ本県海域でも国の漁獲規制が始まる。深浦町は県内一の水揚げを誇るだけに「どっとなるのか」と不安を見せる関係者もいた。

1日朝、岩崎漁港を出港した地元の大型定置漁業「ホリエイ」のはくしん丸は午前11時ごろ帰港。午前のはくしん丸の漁はプリなどの青物に続きマグロ44本を水揚げした。漁獲規制の対象となる30キ未満が多く、最高は36キだった。

同町の今季マグロ漁は5月6日の水揚げ後、低調だったが5月最終週から活発化。深浦漁港では29日に90本以上揚がった。

工藤宏昭・町水産振興係長は「いよいよマグロが見えてきた」と喜ぶ。

一方、深浦を含む日本海北部ブロックのマグロ漁獲量は規制によって現状の半分程度となるため、「一気に群れが来る場合もあり(規制は)気に掛かる」と話した。

はくしん丸に乗り込み出漁したホリエイの堀内榮作会長は、取材に「今までは秋になっても無理してマグロを捕りに行くこともあったが、今季は早めの切り上げもある」と答えた。

(本間善幸)